

# 日本海スケトウダラ調査速報

## ＝計量魚探調査（北部海域）＝

北海道立稚内水産試験場・北海道立中央水産試験場

- ◎スケトウダラの分布量は2007年の約2倍。
- ◎武蔵堆西、小樽堆周辺海域にスケトウダラの分布が多かった。
- ◎分布量の主体は2歳魚（2006年級群；25～28cm）で、尾叉長35cm以上の成魚の漁獲尾数の割合は、昨年と比べて少ない（67%→38%）。

### 1. 調査海域と期間

2008年9月2日から9月6日にかけて雄冬沖～武蔵堆周辺海域において、試験調査船 北洋丸に搭載された計量魚群探知機 EK60 および着底トロールを用いてスケトウダラの分布調査を行いました。

### 2. スケトウダラ魚群の分布

計量魚群探知機によって得られた、1マイル毎に算出した魚探反応：NASC<sup>注1)</sup>値をもとに、調査海域におけるスケトウダラの分布図を図1に示しました。

今年の調査では武蔵堆西、小樽堆周辺海域で比較的高い反応が認められました。また、調査海域全体（雄冬沖～武蔵堆周辺海域）の平均 NASC を比較すると、今年のスケトウダラの反応は2007年の約2倍でした。

### 3. 漁獲されたスケトウダラの特徴

8カ所（武蔵堆周辺3回、島周辺3回、雄冬沖2回）でトロール調査を実施しました。いずれの場所でも尾叉長25～28cm 前後の2006年級群と思われるスケトウダラ（尾叉長から推定、以下同）が漁獲され、代表的な3地点でのトロール調査結果を図2に示しました。中でも E ライン上の島周辺～小樽堆周辺の、水深280～330mの海域で多く漁獲されました（図2中央）。さらに、G ライン上の雄冬沖水深250m 付近でも25～28cm のスケトウダラの割合が高くなっていました（図2下）。同海域の水深240m では2008年級群が漁獲されました。例年、40cm 前後の大型魚が中心に漁獲される武蔵堆西の海域でも2006年級群の割合が高くなっていました（図2上）。

図4に主な調査ラインの魚探反応図（エコグラム）を掲載しました。武蔵堆北部では水深150m 付近の堆直上に0歳魚と推定される魚群が認められました。E ラインでは武蔵堆西に昨年並みの魚群が、小樽堆北部に2006年級群主体の強い魚群反応が認められました。F ラインでも同様に小樽堆周辺に2006年級群主体の強い魚群反応が認められました。

### 4. 海洋観測

トロール調査点で海洋観測を実施しました。水深200m での水温は1.9～3.7℃、300m での水温は1.2～1.3℃でした（図3）。昨年と比較すると武蔵堆西、雄冬沖で低い水温でした。

注1) NASC：海底1マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表し、魚群分布量の指標となる。

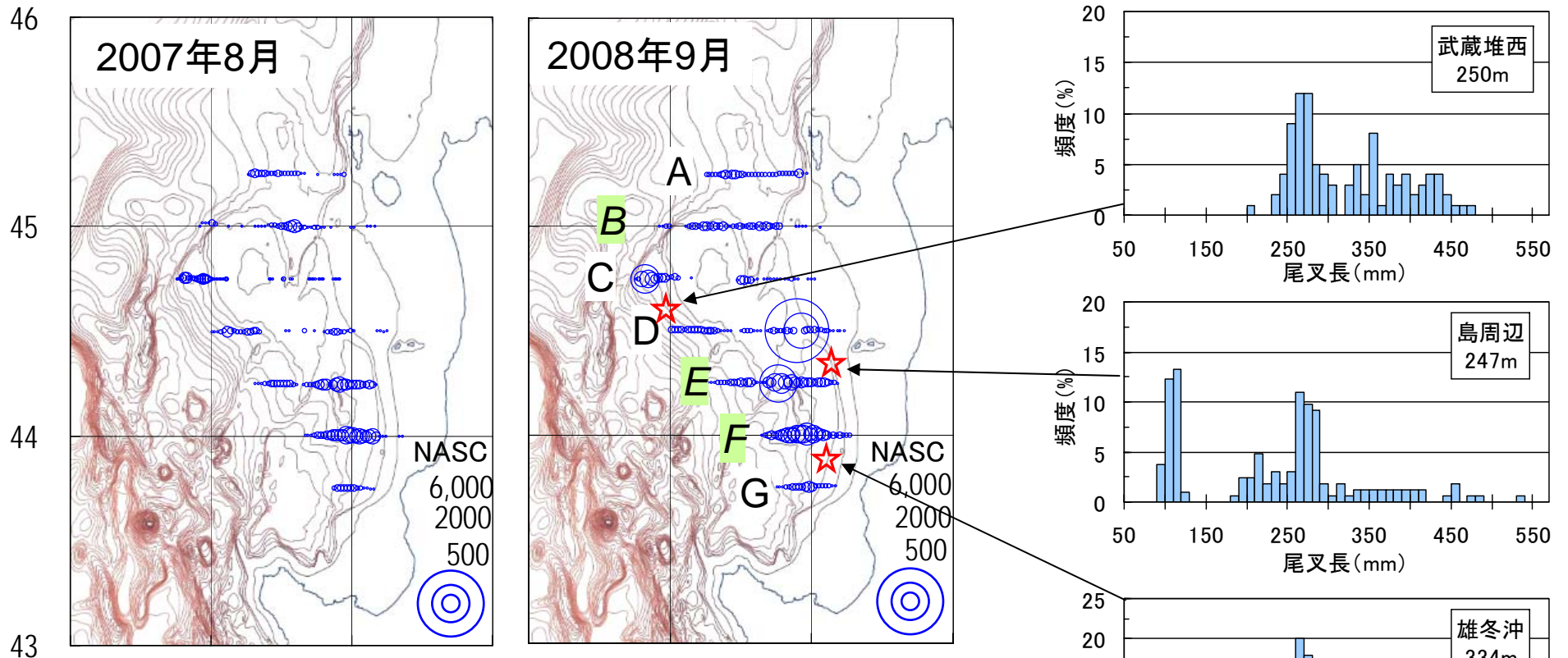


図1 スケトウダラの魚群反応量分布 (NASC(m<sup>2</sup>/nm<sup>2</sup>))

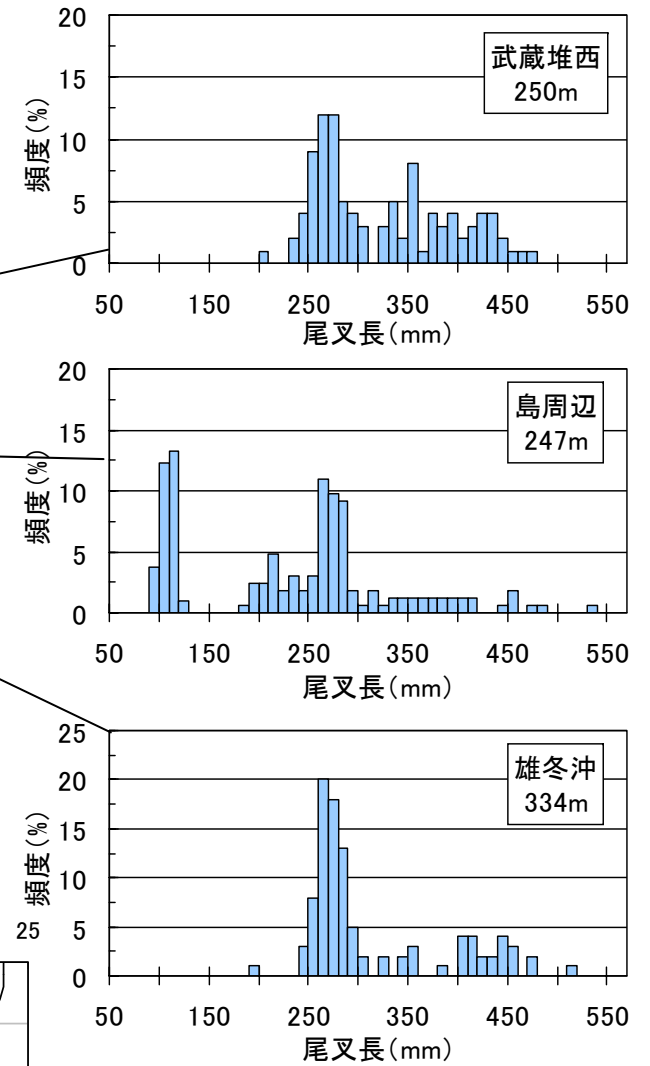
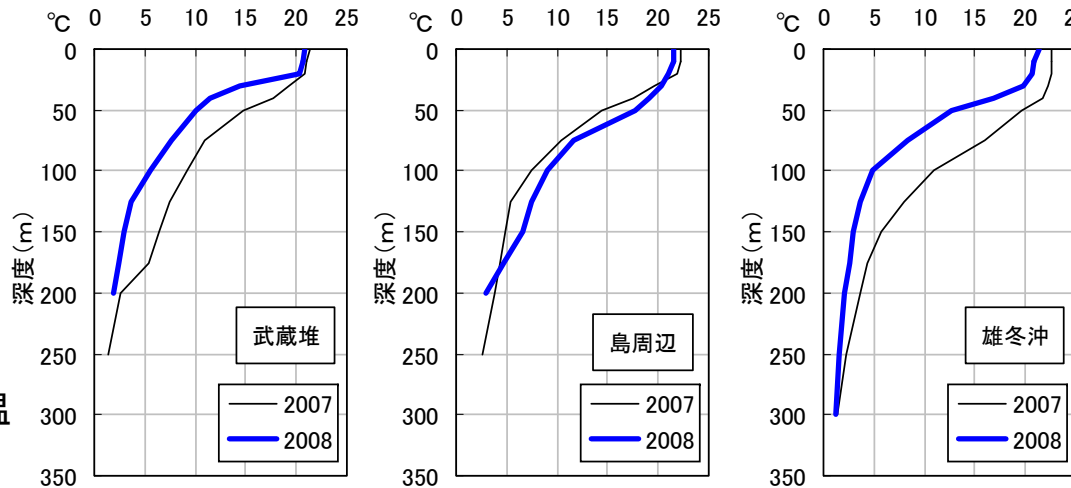


図2 着底トロール網による  
スケトウダラのサイズ組成

図3  
各点の水溫  
鉛直分布



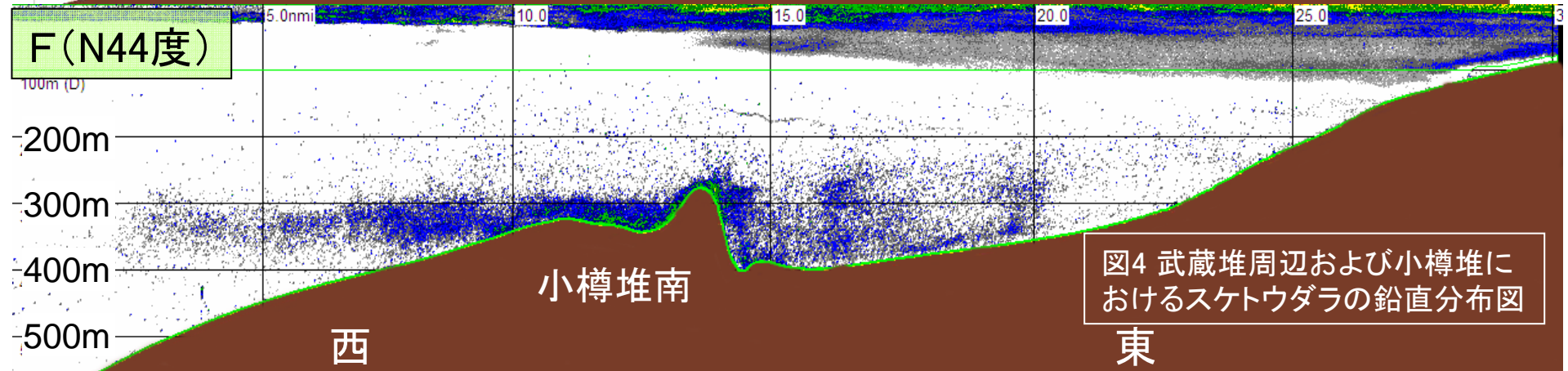
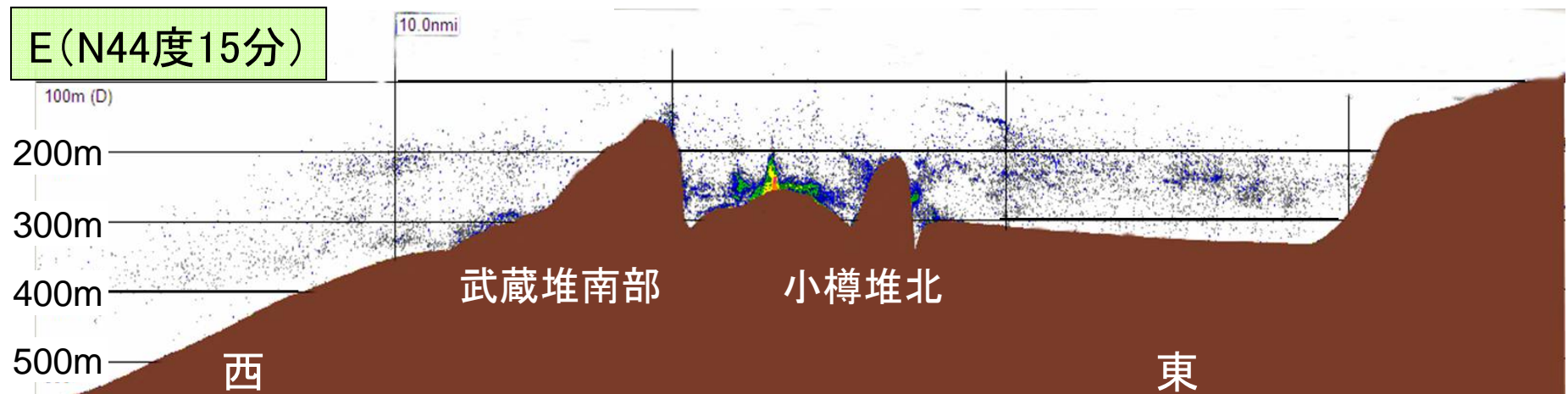
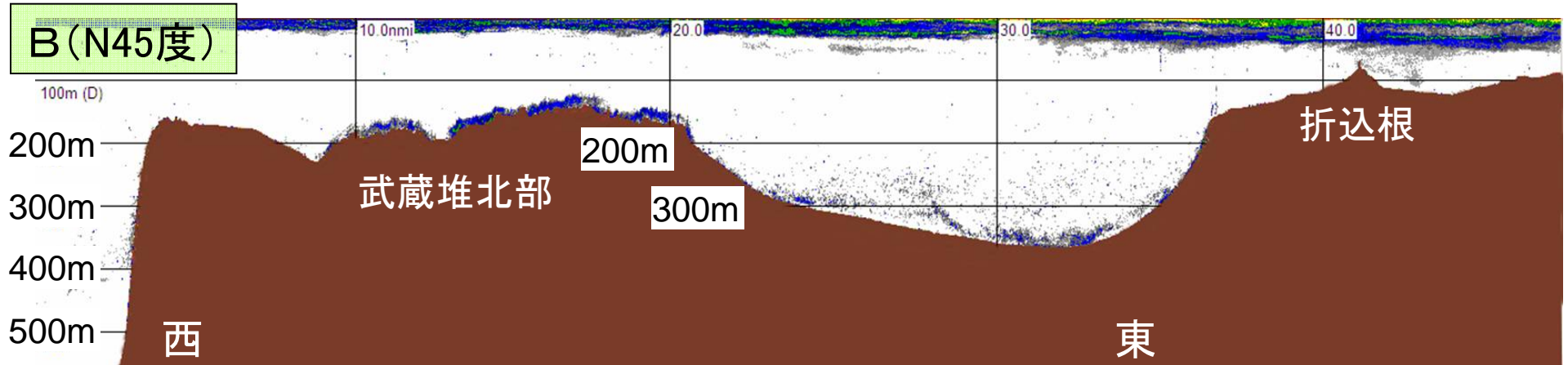


図4 武蔵堆周辺および小樽堆におけるスケトウダラの鉛直分布図